



竹林の風

令和3年のスタート

静かに過ごすことが求められた年末年始でした。そして、新型コロナウイルスの感染が拡大し、更なる自粛が求められながらの令和3年のスタートとなりました。

新たなステージとしまして、竹林の風第42号でもご案内のとおり、間もなく「とちぎ未来創造プラン（仮称）」や「とちぎ教育ビジョン（仮称）」が策定となります。県政の計画である、未来創造プランの重点戦略の筆頭に掲げられるのは「人材育成戦略」です。これは主に教育分野が担当する内容になると思われれます。そして、教育分野の計画が「教育ビジョン」となるわけです。未来創造プランでは「成果指標」、教育ビジョンでは「推進指標」が掲げられており、最終懇談会前ではありますが、内容を確認することができます。5年先の「栃木県政」並びに「とちぎの教育」を見据えたいものです。

とちぎ未来創造プラン策定経過

とちぎ教育ビジョン第4回懇談会結果

さて、今年は十二支で言うと丑（うし）年、干支ですと「辛（かのと）丑（うし）」です。かのと（辛）はつらい、からい等の読み方があると同時に、「しん」とも読むことから、新しいの「しん」にも通じ、十干の設定においては、辛（かのと）を「植物が枯れて新しい世代が生まれようとする状態」を指すようです。また、「丑」という字は、手の指を曲げて物を握る様子を表した象形文字で、つかむ、からむという意味があります。『漢書』律曆志によると「丑」は「芽が種子の中に生じてまだ伸びることができない状態」を表しているとされています。今年は「新しいことが生まれることを控えて、準備をする年」とも言うことができるかもしれません。

干支を受けてということではありませんが、教育事務所ではコロナ禍の対応を振り返り、今後生かせる内容は実践に移し、アイデア段階の内容は、令和4年度も見据えて十分検討を続けるなど、各担当が取組を始めたところです。そして、今後は「発想」が重要になってくるのではないかとと思いますが、組織にとって、習慣化したシステムや方法、考え方を見直し、新しいものを選択していくという作業は容易ではありません。そのため、全体を見る、本質を見る、先を見る意識を常に心に留め置きたいと思えます。

最後に、私たちは長期間に及ぶウイルス対応で疲れ切っていますが、ウイルスには疲れなどありません。緊急事態宣言の期間後も、教職員の皆様には、市町教育委員会のご指導のもと、引き続き一人一人が感染防止に努めるなど、賢く向き合っていてほしいと思います。そして「今後、社会は必ず良い方向に行く」と信じ、努力を重ねる1年」にしていきたいものです。

今、家庭に求められていることとは ～学校と家庭との連携～

全ての教育の出発点は、どこにあるとお考えになりますか？

教育基本法第10条に、「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有する」とありますように、家庭教育は子供の育ちに極めて重要な影響を与えます。子供は家族とのふれあいの中で、基本的な生活習慣や生活能力、自己肯定感、自立心、他者への思いやりなどを身に付けていきます。また、家庭における安心感は、学校の活動エネルギーになります。

「安心できる・居場所がある」と思っている子供は自然と笑顔が増え、何事にもチャレンジするなど、自分の力を発揮していることでしょう。

河内教育事務所では、家庭の教育力向上を図るための「ふれあい学習出前講座」を実施しています。

こんな機会に

- ・就学時健康診断
- ・1日体験入学の保護者説明会
- ・学級懇談
- ・PTA研修 等

こんな内容で

- ・「自己肯定感を高めよう」
- ・「生活習慣を見直そう」
- ・「入学前に知っておきたいこと」
- ・「思春期って」等

様々なオーダーに対応し、出前講座にうかがいます。まずは、河内教育事務所ふれあい学習課に、お問い合わせください。TEL 028-626-3183

演技指導論草案を思い出す

河内庁舎のちょうど南側、通称競輪場通りに面した、ミスタータイヤマン宇都宮錦店（野口タイヤ商会）さんの光景からお話は始まります。毎朝7時半頃から30分ほどかけて、作業場の中から通りまで掃き掃除をしていらっしゃいます。8時頃までは、中学生や高校生の通学の時間帯ですので、今日も一日無事に過ごせますようにと見送っていると、掃き掃除の様子が目に留まるのです。

そんな情景から思い出したのは……。伊丹万作の「演技指導論草案」です。その中の67番目の断章、以下の内容です。

「セットはたえず掃除せよ。しかも掃除していることが目立ってはならない。つつましくかいつもセットを掃除してくれるような働き手を演出者は見つけるべきである。そういう人が見つからないときは自分で掃くがよい。それほどこれは肝要な仕事なのだ。セットがきたないことは仕事の神聖感を傷つけ、緊張をそこね、そこで働く人たちを容易に倦怠に導く。～一度しみ込んだ悪風は容易に取り除かれないものである。」

空気感を作っていくことは、学習指導、児童・生徒指導、更には職場でも大切であると思えます。



さて、この草案について少しご案内いたしますと、最初の出会いは『寅さんの学校論』というブックレットでした。その中の「演技指導と教育は非常によく似ている。山田監督が演技指導の話をするときは、よく草案の話題を出す。」の部分から「演技指導論」に興味をもちました。

本草案は、全84の断章から構成されていて、監督はいかに俳優の良さを引き出すか、照明等のスタッフとの関わり方、撮影環境の作り方などについて記されています。そして、最後の断章には「信頼の上に立たない演技指導は無効である。」と締めくくっています。全てではありませんが、教育に結びつく内容も多く、学年や学級、そして授業をマネジメントする際の考え方として、現在でも参考になります。

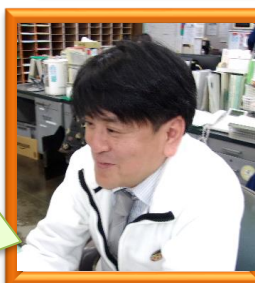
最後に、せっかくですので、野口商会さんにもお話を伺ってまいりました。清掃への取組については、「先代からの習慣になっていて、みんなで分担して掃除をしている。」「自宅の玄関や家の周りを掃除するのと同じ。」とのことでした。また、2階の事務所も掃き掃除と水拭きをしていらっしゃったり、電話等で作業を途中のまま終えてしまうと、その日は何とも落ち着かない、更には、降雪の際、学生たちが転倒しないようにと、圧雪される前に、ある程度の範囲を雪かきしたりするなどの、ありがたいお話も聞くことができました。その上で、組織の経営という観点であえて考えてみたときに、毎朝の清掃が働く方々の習慣となり、職場の風土として根付いているということは、すでに経営理念などというものを超越しているのではないかと感じました。

今回は話があちこちに飛んでまとまりがなくなってしまい、大変失礼いたしました。

因みに、教育事務所では毎朝8時から、掃き掃除と水拭きを行っています。先輩方から脈々と引き継がれている伝統です。職場の緊張感、神聖感をつくるとともに、切替の習慣が身に付くと思っています。

【参考】山田洋二『寅さんの教育論』（岩波ブックレット）、山田洋二・田中孝彦『寅さんの学校論』（岩波ブックレット）
大江健三郎『伊丹万作エッセイ集』（筑摩書房）

職員紹介 ☆ふれあい学習課 田中 久之 社会教育主事です☆



田中社会教育主事は、今年度から河内教育事務所に勤務するニューフェイスです。その素顔は、「誠意」「実直」そのもの（見せ方上手!?!）で、誰もがその術中にはまるほどです。そして特技は、幹事をする事。コロナ禍の中ではありましたが、工夫して3密を避け、少しでも職員の交流が深まるようにと、熱意をもって所内イベントを企画・実行しました。もう一つの特技は電話をワンコールで取る早さです。そのお待たせしない姿勢から、電話対応の「魔術師」とも呼ばれています。

本紙をご覧の皆さまも、田中社会教育主事とふれあって（話して）みませんか。

教職員一人一人の誇りと品格は 教育への信頼を確たるものにする